

T社は、同一工場内の別工程においてA製品とB製品を製造しているが、A製品については完成時に等級の異なる製品に分離される（単一工程組別総合原価計算を適用し、A製品についてはその後、等級別総合原価計算を適用する）。平成X年Y月における次の生産・原価データにもとづき、各設問に答えなさい。なお、直接材料はすべて工程の始点において投入している。また、期末仕掛品の評価は先入先出法によることとし、計算上端数が生じた場合は四捨五入により円の位まで求めること。

<生産・原価データ>

	A製品	B製品
期末仕掛品	100個	150個
加工進捗度	(50%)	(40%)
直接材料費	¥18,000	¥34,000
加工費	¥39,000	¥58,000
当期投入	400個	550個
直接材料費	¥80,000	¥141,000
加工費		
(組直接費)	¥140,000	¥560,000
(組間接費)		¥150,000
期末仕掛品	200個	100個
加工進捗度	(60%)	(50%)
当期完成品	300個	600個
1級品	100個 (等価係数 1.0)	
2級品	200個 (等価係数 0.8)	

(設問1)以下の順序により、計算式と答を示して組間接費をA製品とB製品とに配賦し、各組製品の当期加工費を計算しなさい。ただし、組間接費の配賦基準は各製品の当期組直接加工費の比率によること。

(1)A製品組間接費

$$= 150,000 \times \frac{140,000}{140,000 + 560,000} = 30,000 \text{円}$$

(2)B製品組間接費

$$= 150,000 \times \frac{560,000}{140,000 + 560,000} = 120,000 \text{円}$$

(3)A製品当期加工費

$$= 140,000 + 30,000 = 170,000 \text{円}$$

(4)B製品当期加工費

$$= 560,000 + 120,000 = 680,000 \text{円}$$

(設問2)以下の順序により、計算式と答を示して、A製品についてのみ原価計算をしなさい。

(1)期末仕掛品直接材料費

$$= 80,000 \times \frac{200}{400} = 40,000 \text{円}$$

(2)期末仕掛品加工費

$$= 170,000 \times \frac{200 \times 0.6}{300 - 100 \times 0.5 + 200 \times 0.6} = 55,135 \text{円}$$

(3)期末仕掛品原価

$$= 40,000 + 55,135 = \mathbf{95,135\text{円}}$$

(4) 当期完成品結合原

$$= 18,000 + 39,000 + 80,000 + 170,000 - 95,135$$

$$= \mathbf{211,865\text{円}}$$

(設問 3)以下の順序により、計算式と答を示して、A 製品についてのみ原価計算をなさい。

(1) 1 級品の積数 =  $1.0 \times 100 = \mathbf{100}$

(2) 2 級品の積数 =  $0.8 \times 200 = \mathbf{160}$

(3) 1 級品の完成品原価

$$= 211,865 \times \frac{100}{100 + 160} = \mathbf{81,487\text{円}}$$

(4) 2 級品の完成品原価

$$= 211,865 \times \frac{160}{100 + 160} = \mathbf{130,378\text{円}}$$

(5) 1 級品の単位原価

$$= 81,487 \div 100 = \mathbf{814.87\text{円/個}}$$

(6) 2 級品の単位原価

$$= 130,378 \div 200 = \mathbf{651.89\text{円/個}}$$